

平成28年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	山口県	担当機関名	山口県水産研究センター
種名	メイタガレイ	対象水域	山口県瀬戸内海

1. 調査の概要

県内の主要市場（3市場）に水揚げされた対象魚種の全長組成及び小型底びき網標本船による調査を行い年齢組成及び水揚げ状況、操業状況を把握した。  
 また、小型底びき網標本船のCPUEから資源動向を検討した。  
 漁獲統計は農林水産統計よりカレイ類（ウシノシタ類を含む）を1996年から2012年まで、標本船のCPUEは日誌より1984年から2016年までの値を用いた。

2. 漁業の概要

2012年のカレイ類の漁獲量は386トンであり、うち小型底びき網が277トン、刺網が103トンであった。また、海域別では安芸灘・伊予灘が187トン、周防灘が199トンであった。  
 山口県における近年のカレイ類漁獲量は、ウシノシタ類を含む漁獲統計から推定せざるを得ないため、その動向を把握することが難しいが、ウシノシタ類を含むカレイ類漁獲量の推移は漸減傾向にあり、カレイ類の漁獲量も厳しい状況にあると考えられる。

3. 生物学的特性

成長式 雌：TL =  $284.2 \times (1 - e^{-0.552(t+0.451)})$  雄：TL =  $280.0 \times (1 - e^{-0.529(t+0.444)})$   
 全長体重関係 BW =  $3.39 \times 10^{-6} \times TL^{3.25}$   
 成熟年齢 2歳 寿命 8歳<sup>1)</sup> 産卵期 11~12月 （寿命以外は山口県未発表データによる）

4. 資源状態

1984年から1995年まで小型底びき網におけるCPUEは、約2kg/日・隻の低い値で推移していた。しかし、1996年から1997年にCPUEが大きく上昇し、その後再び減少したが、1998年以降は2~3kg/日・隻の値で推移してきた。  
 2009年以降CPUEは減少傾向が続き、2016年の小型底びき網の値は、2015年と比べると64.5%と減少し、2006年から2015年までの直近10年間の平均値の46.7%と低い水準であった。  
 これらの結果から、メイタガレイの資源水準は低位で、やや減少傾向にあると判断された。

5. 資源回復に関するコメント

周防灘海域においては、「周防灘小型機船底びき網漁業対象種資源回復計画」等に基づく自主的な小型魚の保護として全長15cm以下の再放流の指導を行っている。小型機船底びき網漁業の資源管理措置として、投棄魚の生残率を高めるためのシャワー装置設備や改良漁具の導入等の普及に努めており、公的制限を除く自主的な年間土曜日35日以上休漁の設定に取り組んでいる。

文献

- 1) 山口県・福岡県・大分県(1987)：昭和59~61年度周防灘漁業管理適正化方式開発調査事業最終報告書

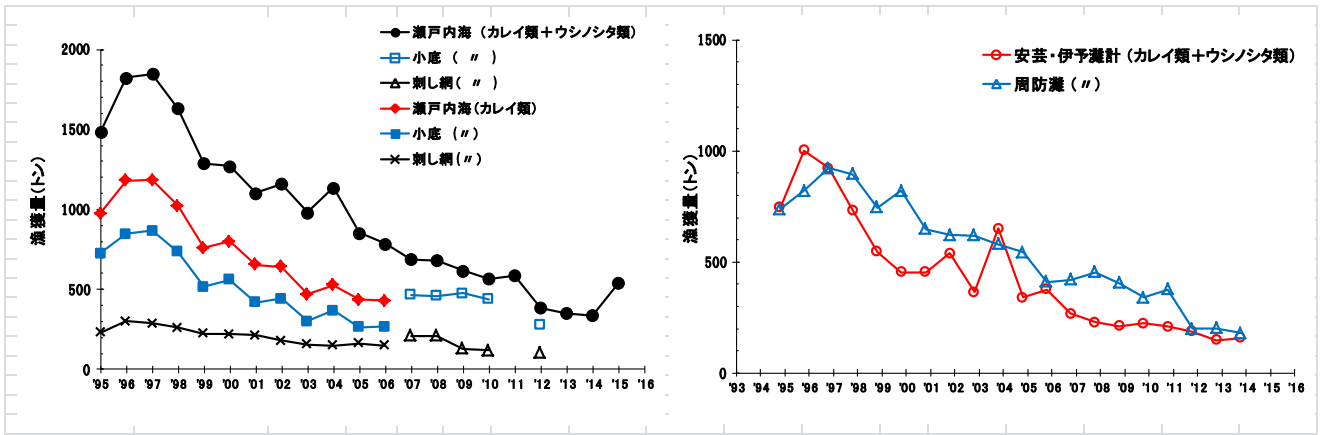


図1 山口県瀬戸内海のカレイ類漁獲量の推移 左：漁業種類別、右：地域別（農林統計値）

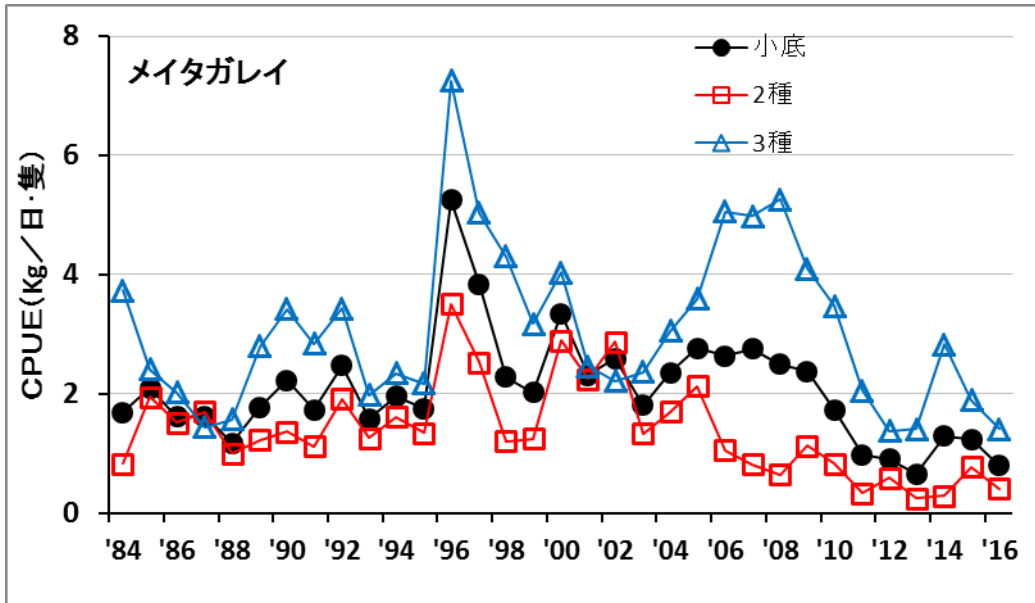


図2 小型底びき網標本船のメイタガレイ CPUE の推移

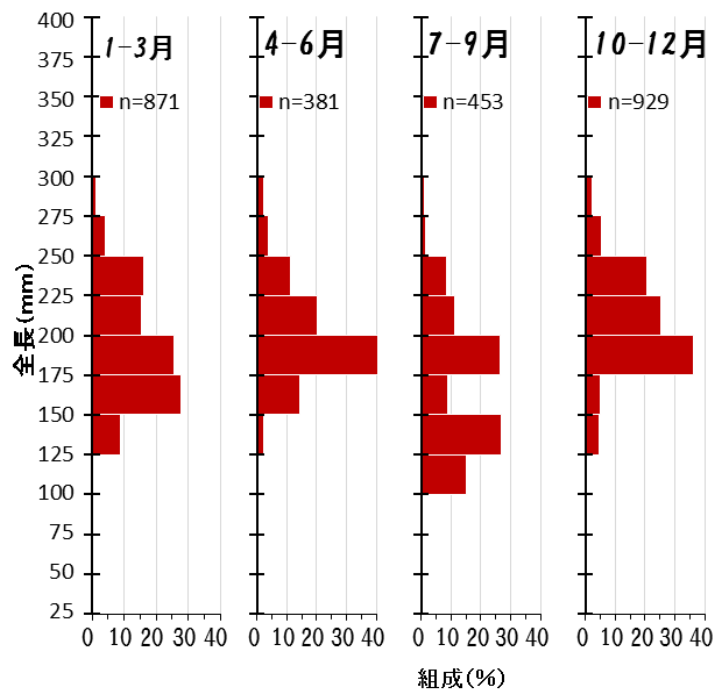


図3 メイタガレイの全長組成（2016年）

平成28年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	福岡県	担当機関名	福岡県水産海洋技術センター 豊前海研究所
種名	メイタガレイ	対象水域	福岡県瀬戸内海

1. 調査の概要

行橋市場における漁獲物の全長組成及び小型底びき網標本船のCPUEから資源動向を検討した。標本船のCPUEは、2005～2015年のものを用いた。

2. 漁業の概要

メイタガレイを漁獲対象とする主要漁業は、小型底びき網漁業と固定式刺網漁業である。小型底びき網は、一般的に春季～秋季は手繰り第二種、秋季～冬季は同第三種を使用し操業するが、一部の漁業者は、冬季も第二種の漁具を使用し、メイタガレイを漁獲している。固定式刺網は周年操業するが、メイタガレイは主に「かれい建網」と呼ばれる三重網で漁獲され、盛漁期は冬季である。

3. 生物学的特性

成長式 雌： $TL = 284.2 \times (1 - e^{-0.552(t+0.451)})$  雄： $TL = 280.0 \times (1 - e^{-0.529(t+0.444)})$   
 体長体重関係  $BW = 3.39 \times 10^{-6} \times TL^{3.25}$   
 成熟年齢2歳 寿命8歳<sup>1)</sup> 産卵期 11～12月  
 （寿命以外は山口県未発表データによる）

4. 資源状態

市場における漁獲物測定では、全長110～290mmまでの個体が確認された。  
 CPUEは、手繰り第二種で0.02kg/日・隻、同第三種で0.09kg/日・隻、合計で0.05kg/日・隻となり、非常に低い水準で推移している。CPUEの推移から資源水準は低位、動向は横ばい傾向と考えられる。

5. 資源回復に関するコメント

小型底びき網で混獲されていると思われる小型魚の再放流及びシャワー装置活用の徹底が必要と考えられる。

文献

- 1) 山口県・福岡県・大分県(1987)：昭和59～61年度周防灘漁業管理適正化方式開発調査事業最終報告書

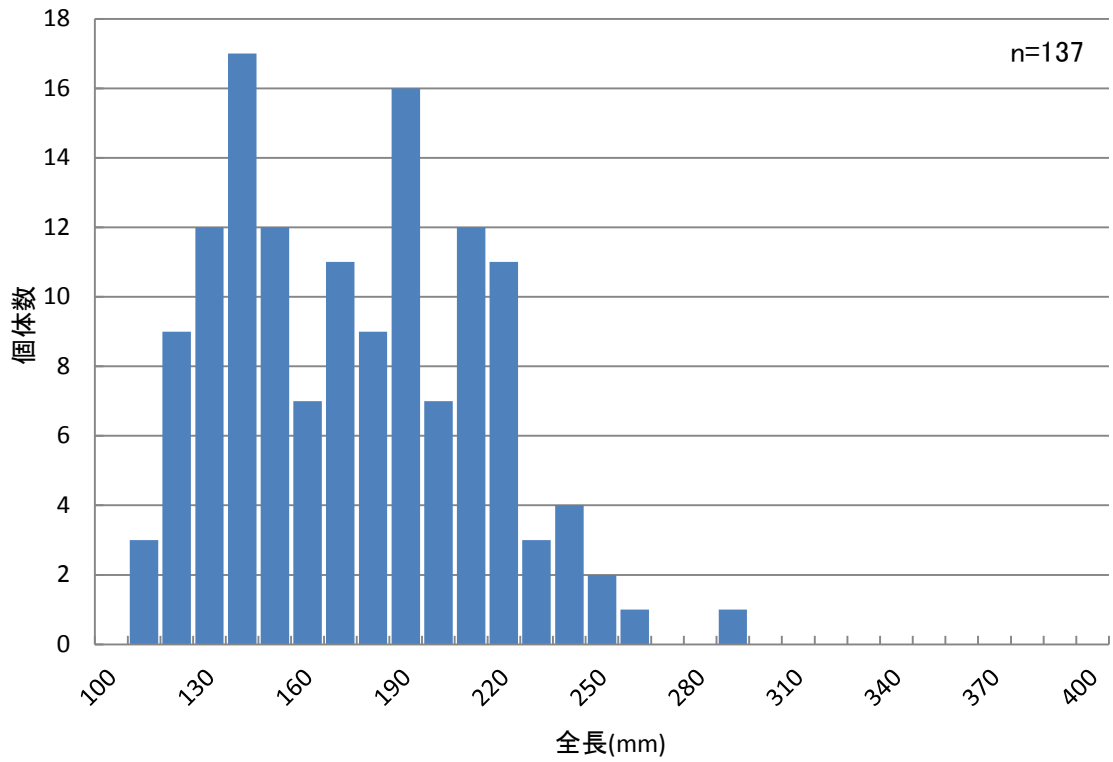


図1 市場で測定したメイタガレイの全長組成

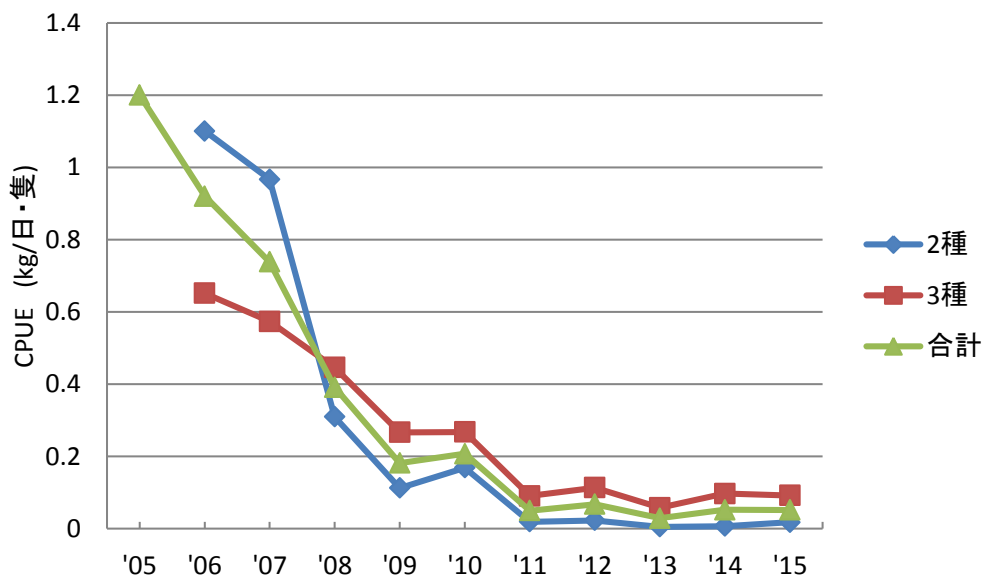


図2 底びき網標本船のメイタガレイCPUE

平成 28 年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	大分県	担当機関名	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部 浅海・内水面グループ
種名	メイタガレイ	対象水域	大分県瀬戸内海

1. 調査の概要

資源動向は小型底びき網標本船のデータから検討し、1982～2016年のデータを用いた。また、市場調査（高田魚市場）により全長の測定を行った。

2. 漁業の概要

当海域におけるメイタガレイの主要漁業は、小型底びき網と刺網である。小型底びき網は春の休漁期を除き、ほぼ周年操業を行う。春～秋は手繰第2種（えび漕ぎ）、秋～春は手繰第3種（貝桁）での操業が一般的である。刺網はほぼ周年操業を行うが、特にかれい類を主目的として操業する場合は「かれい建網」と呼ばれ、メイタガレイを対象とする操業は3月～4月に多い。

3. 生物学的特性

成長式 雌：TL =  $284.2 \cdot (1 - e^{-0.552(t+0.451)})$  雄：TL =  $280.0 \cdot (1 - e^{-0.529(t+0.444)})$   
 全長体重関係 BW =  $3.39 \cdot 10^{-6} \cdot TL^{3.25}$   
 成熟年齢 2歳 寿命 8歳<sup>1)</sup> 産卵期 11～12月  
 （寿命以外は山口県未発表データ）

4. 資源状態

図1より、小型底びき網標本船のCPUEは、2009年に2.0kg/隻・日と上昇したが、2012年に0.5kg/隻・日まで減少し、2016年は0.7kg/隻・日と依然として低い値であることから、資源水準は低位と判断される。また、2012年から2016年のCPUEから判断すると、資源動向は横ばいである。

図2より市場調査の結果、小底による漁獲が多くを占めており、1月から6月にかけては全長15cm前後の個体が多く、7月から12月にかけては、20cm前後の個体が多かった。

5. 資源回復に関するコメント

小型底びき網の投棄魚にはメイタガレイ稚魚の混入がみられる。稚魚の混獲を低減するため、宇佐市事業による補助のもと、底網の目合いを7節にした網目拡大漁具の導入が2015年度に16隻、2016年度に13隻で行われている。

【文献】

- 1) 山口県・福岡県・大分県(1987)昭和59～61年度周防灘漁業管理適正化方式開発調査事業最終報告書

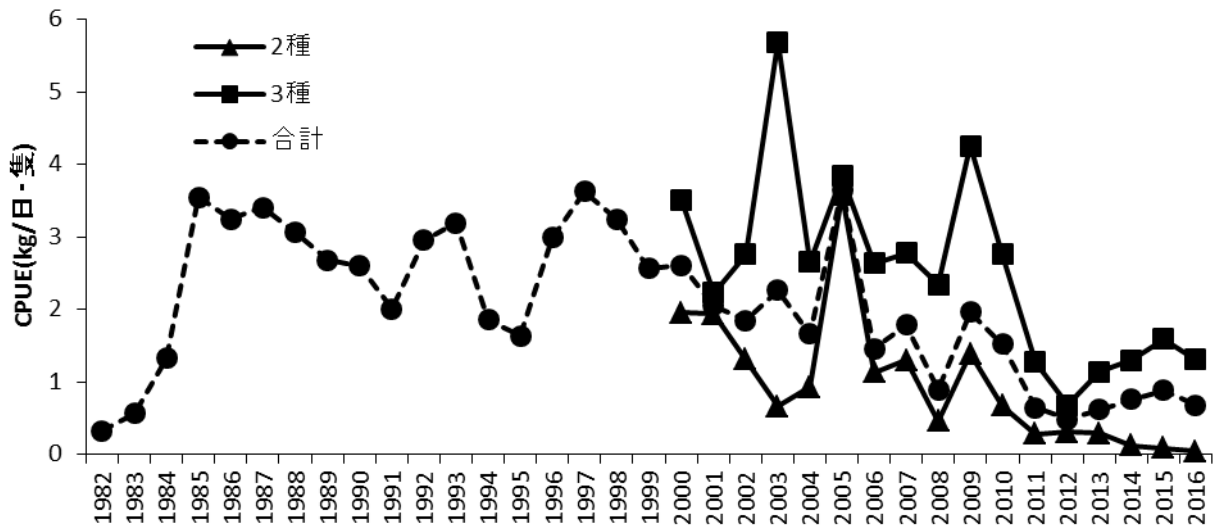


図1 大分県周防灘における小型底びき網標本船のメイタガレイ CPUE

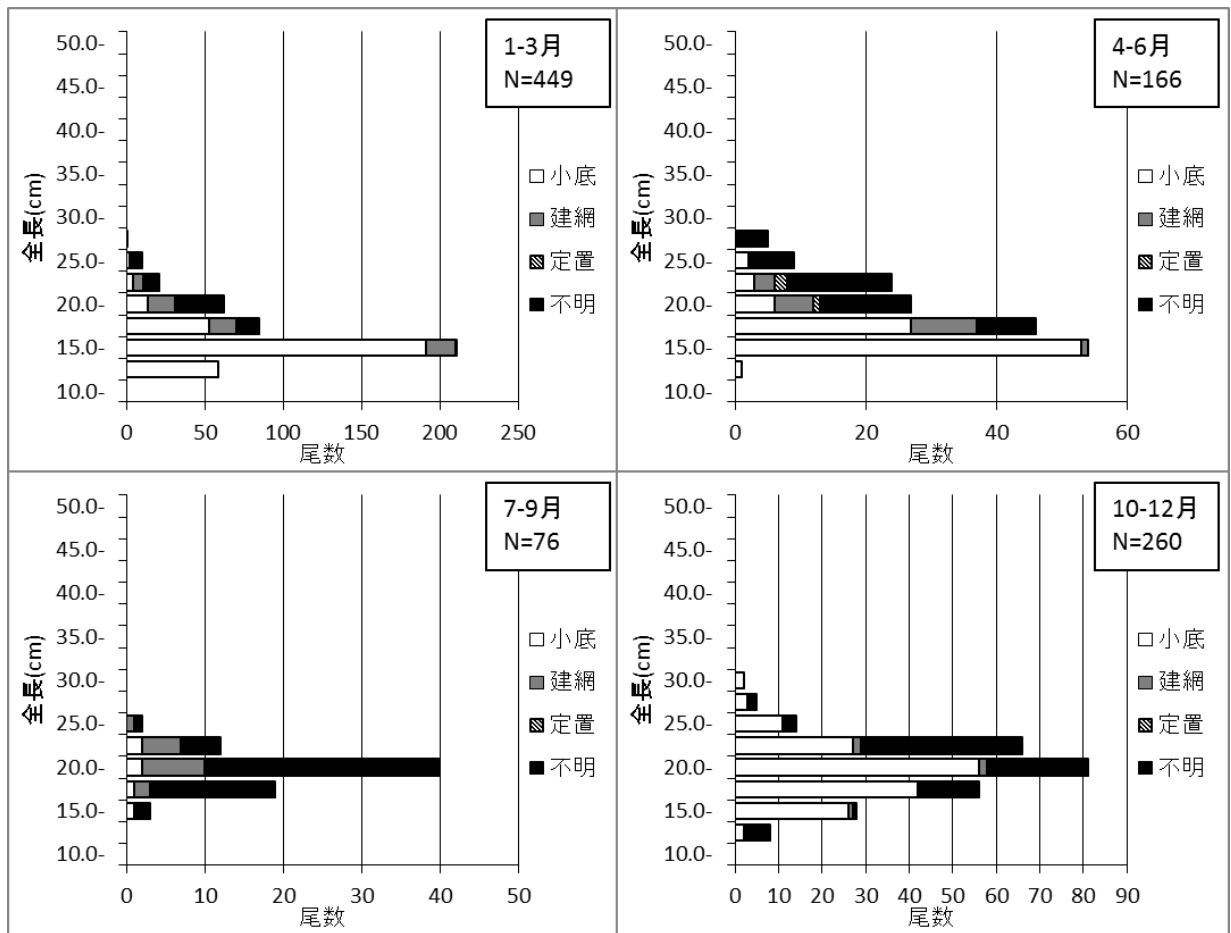


図2 2016年に市場で測定したメイタガレイの全長組成